

米・プロ野球独立リーグでプレーしている、安田裕希選手からメッセージが届いています！！

・安田裕希選手のコメント

『アメリカプロ野球独立リーグの一つである、ペコスリーグの Douglas Diablos(ダグラス・ディアブロス)でプレーしています、安田裕希といいます。昨年のシーズン中はとにかくたくさん壁にぶつかりました。ただ、その経験をしたからこそ、たくさんのことを得ることもできました。しかし「アメリカで良い経験ができました」というだけでは終わりたくないという気持ちが常に心にありました。もう一度アメリカに挑戦するという強い思いで、春にペコスリーグのトライアウトに参加し、今回のチームとの契約に至りました。

そんな思いで始まった5月からのスプリングトレーニングには、内野手が12人もいるところからのスタートとなりました。開幕を迎えるチームの内野手の人数は大体5～6人というところが多く、単純に内野手の半分が開幕を前にチームを去ることになりました。糺余曲折ありながらも、私はその半分に残り、なんとか開幕の日を迎えることができました。

私の所属するディアブロスは、開幕当初約半分がドミニカ人という構成で、その中の多くはメジャーリーグの傘下のチームでプレーを経験したことのある選手ばかり

でした。身体能力の高い選手が多く、驚くようなプレーも多くありました。その反面、信じられないようなミスも少なくはなくチーム全体の能力はあるのに、中々勝てないという日々が続きました。その中で私個人としては、試合終盤のピンチヒッター、守備固めとしての出場がメインとなっています。

ペコスリーグは、アメリカでは珍しく DH 制を取り入れていないため、終盤でのピッチャーの打席でピンチヒッターを送る場面は多くあります。試合のスタートからグラウンドに立てていないことは、素直に悔しいですが今の立場で結果を出し続けていくことしか、この現状を打破することはできないのでチャンスは少ないですが、なんとか結果を出していきたい思っています。

開幕して約半分が終了し、開幕当初のメンバーの約 1/3 が入れ替わりました。解雇になり去っていくチームメイトを目の当たりにし、改めてアメリカでプレーする厳しさを感じています。またその反面、上位リーグに移籍していく選手もいます。チャンスは自分次第でいくらでも広げられると、改めて実感することができています。残りシーズン、とにかく数字にこだわって、自分の可能性を自分自身で広げていきたいと思っています。

今回の渡米に際し、多くの方に応援のお気持ち、お言葉を頂くことができました。その方々からたくさんの方をもらっています。本当にありがとうございます。引き続き応援して頂けるような活動にしていきたいと思っていますので今後とも何卒よろしくお願ひします！！』

アメリカで活躍して更に高いレベルを目指すことにフォーカスして、挑戦し続ける安田選手は人間としても成長を見せてています。その成長がグラウンドでもいい形で示すことができているのだと思います。まだまだ可能性を秘めている安田選手の今後の活躍を期待しています！！

